

【成果概要】5-4 気候変動による宍道湖・中海の水質等への影響調査

調査結果の概要

■ 平成30年度の成果

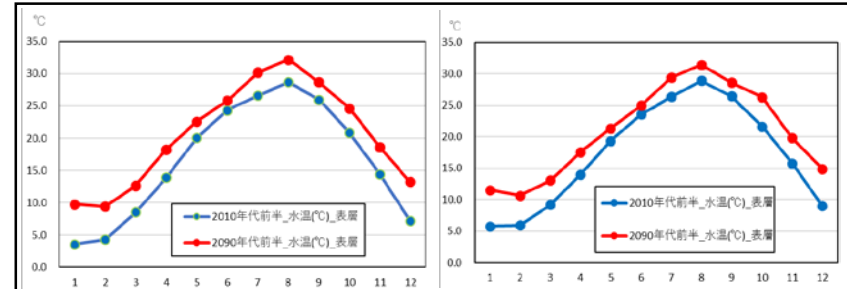
- 宍道湖・中海の水温と塩分について将来の影響予測を試行した。
- 影響予測の試行結果、以下の傾向が見られた。
 - 2010年代前半に比べ、2090年代前半は水温、塩分とも上昇する。
 - 月別に見ると、表層の水温は特に冬期の上昇が大きい。

■ 明らかになった課題

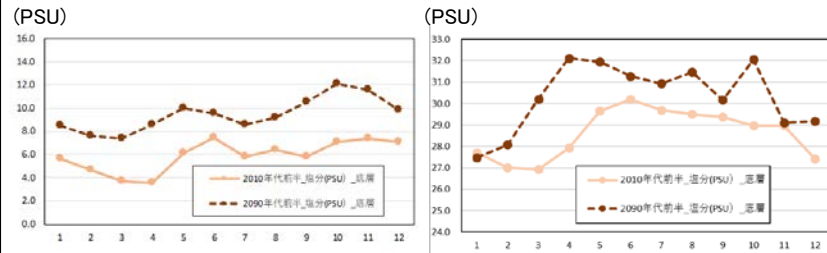
- 日本海の潮位などの精査、河川流入水の水量変化のパターンの検討など、入力データの精査、精緻化を進める必要がある。
- モデルについても、更にパラメータ設定等を精査する必要がある。

■ 平成31年度の調査計画

- 水温、塩分に引き続き、DOについても影響評価を行う。
- 汽水域の水質の特徴である塩分躍層の発生頻度や底層の貧酸素面積割合など、わかりやすい形での影響評価を行う。
- 将来予測される課題等を整理した上で、適応策について検討を行う。



宍道湖湖心月別平均水温(表層) 中海湖心月別平均水温(表層)



宍道湖心月別平均塩分(底層) 中海湖心月別平均塩分(底層)

図 宍道湖湖心の水温及び塩分の予測試行結果

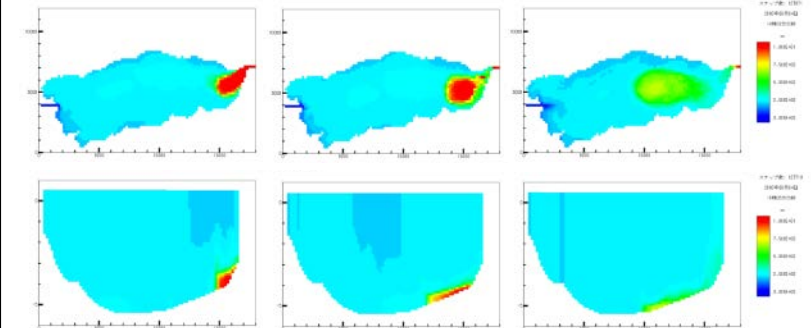


図 将来予測シミュレーションのイメージ
(大橋川から宍道湖に高濃度の塩水が流入・拡散する様子)

※いずれの図も RCP8.5、2090-2094年、NHRM2

注: 本結果は、暫定的な試行結果である。

注: 本結果は2010年代前半(2010-2014)と、2090年代前半(2090-2094)の各5年間の試行の平均値を比較している。